

議 事 録

目 的	第4回尾鷲市総合計画審議会 部会協議
-----	--------------------

日 時	平成28年8月22日（月）19:00～20:10
-----	--------------------------

場 所	本庁2階 会議室
-----	----------

部 会 名	第4部会
-------	------

内 容	<p>○出席者 委員：北裏佳代委員、堀内達也委員、若林正也委員、石川郷子委員、南進委員、中村レイ委員 市：教育総務課 佐野課長、山本調整監、生涯学習課 芝山課長、福祉保健課 三鬼課長、市長公室 森下係長</p> <p>○主な協議等内容 ・次回開催日 平成28年9月30日（金）19時～ ・質疑応答 以下のとおり</p> <p>進行：部会長 堀内 達也 氏</p> <p>◆「重点的な取り組み」について</p> <p>委員：食のまちづくりの基本計画を策定された年月日を入れていただけると有り難い。</p> <p>委員：重点的な取り組み（素案）の「重点的な取り組みのイメージ」ということで、「地域を支える」、「次代を担う」、「産業を支える」、ここへ「食」が入ってきて、現在、「尾鷲の食」として一つの観光的な目玉になっているが、尾鷲市の全体を見た時に、あらゆるものについて「食」をこの基本計画として入れていくのか。</p> <p>森下係長：「おわせ人づくり」ということで、「次代を担う人」、「地域を支える人」、そういう人づくりをしていく中で尾鷲市の地域資源として着目されている「食」をキーワードにして、色々な人づくりを行い、まちづくりを進めていこうと今回位置づけして、前期の基本計画から変更した点として追記してある。</p> <p>委員：素案の中で「産業を支える人づくり、おわせ応援団づくり」と、この中で『特に』、「食のまちづくりを重視し、その具体化を図る」ということで、ここへ入ったということか。</p> <p>森下係長：そうである。</p> <p>◆411 子育て支援の推進について</p> <p>委員：ネウボラというものが分からない。</p> <p>三鬼課長：一言で言うと、途切れのない子育て支援を提供できるしくみである。保健師が妊娠から出産、子育てまで、マンツーマンで支えるのが本当のネウボラだが、それに似たものを名張市がや</p>
-----	---

っていて、非常に重点化して人をかけて、それが功を奏している。子育てに不安を抱える保護者が多い中で、安心して子育てができるように一人ひとりの成長に応じた途切れのない支援を組み立てるとというのが一つの目標で、このしくみをネウボラと呼ぶが、下に注釈を書かせていただく。

委員：この前も言ったが、市のことと一般のことは丸印を分けるなりをしていただきたかった。

三鬼課長：全般を通して、すべての部会を通した形での整理を考えている。

委員：第5次の後期の見直しの時には、前期の振り返りがあったが、今回なくなってしまったのではないか。総合計画の後期の見直しなので、前期5年やった結果こういうことが出た、という振り返りが全体通してあっても良いのではないか。

三鬼課長：総合評価書にある前期の振り返りのところは、現状と課題に反映させており、それを受けた方針となっている。

委員：前回は全部について、施策についての前期の振り返りと後期に向けた提案、というものがあった「現状と課題」が前とどうリンクしていくのかが分かりにくいので、前はどうかだったが振り返るところであるという書き方のほうが良いのではないか。

三鬼課長：今回のスタイルは現状と課題のところへまとめた形にしてある。

委員：「第7次」ならこれで良いと思うが、第5次の後期の基本計画は振り返りがあり、そのほうが見やすいのではないか。書き方だけなので、少し考えていただきたい。

芝山課長：全体に関わる議論になるので、今までの議論なら前期の振り返りというのは資料としては付いているので、それをバラして項目ごとに落とし込むのか、それとも資料を別添で付けるのか、その辺の構成の部分は全体の中で相談させていただきたい。

委員：前期の最初から提案しているが、施策の達成には、やはり振り返り、反省がなければ、次の実行にはなっていないので、必ずそれが入っているような形に持って行っていただきたい。

森下係長：全体的に関わってくるので、相談し、回答させていただく。

◆412 未就学児への支援について

委員：もうこの書き方しかない。内容は何とも言いようがない。

佐野課長：食の基本計画という計画があって、そこに食育の細かいものがあるので、これはそこに繋げるという位置づけである。

委員：食べるだけではない意味の食育のほうが、少しもの足りない。どうしても基本計画でいくと魚があって、食べるということのほうが強いように思う。

佐野課長：基本計画を読んでいただくと、言っていたことも含め、食べ方や文化的な面も食の基本計画の中にはライフステージの部分で挙がっているので、それを受けているということでご理解いただきたい。

◆413 学校教育の充実について

委員：ネット問題が一番の問題である。

佐野課長：夜、座って子どもたちがスマホでネットしていて驚いた。まだ時間的には早かったので早く帰ると声をかけたが。

委員：夏休みは、学校に行っていないので緩くなっているところがあり、トラブルになりやすい。

委員：声をかけるのも難しいところがあり、今は下手に声をかけると、おかしなおじさんに声をかけられたと言われるし、声をかけなければかけなかったで気になるところもある。

委員：その子のとらえ方で、家に帰って親に「変なおじさんに声かけられた」と言うと、せっかく注意しても不審者扱いになる。

◆421 生涯教育の推進について

※意見なし

◆422 生涯スポーツの推進について

芝山課長：先ほどの指標の数字のところだが、全体を見た中で、例えば人数を指標にしている項目も他のところであるかと思うが、そこが人口減に伴ってすべて減らしたような指標を目標とするのか、生涯スポーツだけの考えではなく、その辺りの全体的なバランスもとっていかなければいけないと思うが、前回とのバランスも含め今後調整していく必要があると思う。

委員：パーセント表示にしたほうが、実情を表していて良いと思う。人数を書いていくのは難しいし、分かりづらい。実際にどれだけ減っているのかが見て分からない。パーセントはどちらにしても一緒なので、パーセント表示にさせていただいたほうが分かりやすいのではないかと思った。

委員：パーセントでした場合は、27年度もパーセントか。

芝山課長：27年度の数字を100としてパーセント表記するとどうしてもマイナスにしかできないので、人口の伸び、落ち率に対して、スポーツ施設の利用の落ち率はマイナスではない考えで設定している。65,000は数字だけ見れば減っているように見えるが、取り組みとしてはかなりハードルの高い数字であり、その数字を上手くパーセントで表せるかどうかである。27年度を100にして、33年度をパーセントにすると、96%という、マイナス4%という数字になる。

委員：今は12%の利用率だったら、33年が12.1とかという利用率でもマイナスになるのか。

委員：出すのなら27年度も出して、それに対しての33年度も出すしかないのか。

芝山課長：人口の割合を当てはめると、ここは67,000が60,000人になる。60,000人に対し65,000人の目標を立てるというような。しかし、60,000人の根拠もないので、それもおかしいと思う。

委員：ある程度、根拠を聞かれた時に、こういうことからこういう数字が出たと説明できるくらいのものであれば良い。実際なかなか難しいというだけで少し弱いかなと思うが、非常に難しいところだ。

芝山課長：スポーツの振興については、競技スポーツの人口は、人数と比例して減ると思う。ただ、生涯スポーツは、今までスポーツにあまり関わっていなかった人も色々な機会をつくっていくことで、ウォーキングくらいならやってみようか、という人は増やせると思う。競技スポーツはどうしても学校の中であつたり、尾鷲は実業団がないので、その辺りは競技スポーツで増やしていく、人数をキープしていくのは難しいので、やはり生涯スポーツを進めていこうということで、まさにご提案いただいたウォーキングやトレイルを含めたところを積極的に

取り組んでいくことで数字をアップしていきたい。

委員：そのために後期でウォーキングや新たな取り組みをやっていくということか。

芝山課長：これについては、オープンウォーターの例もあったが、国体は正式種目以外にデモンストレーション競技というのもあり、デモンストレーション競技はまだこれから県内で設定していくが、積極的にウォーキングやニュースポーツを取り込んでいく仕掛けも国体に向けてやりながら、スポーツ愛好者の数を増やしていきたい。それがイコール施設利用者の数に繋がっていくという仕掛けはできていると思っている。

委員：なかなか難しい数字である。

芝山課長：子どもたちの数も減る中で厳しいところがある。

三鬼課長：施設に限定した数しか今までデータがない。新しく後期では、スポーツ推進計画にもあったように、ウォーキング等気軽に楽しめることを増やしていく、ということになると指標自体を施設に限定するか、もしくはスポーツを楽しむ人の数という形で、少し広めることも有りかと個人的には思う。

芝山課長：実は課内でもその議論は出ていて、ウォーキングだと施設を利用せずに出てしまうのではないかと、体育館などをスタートにしたら良いが、それだとなかなか数字が上がりにくいという議論もあるので、イベントや取り組み、機会が増えていくことにより人数が増えていくというようなところを目標値にしたら前向きな取り組みに繋がっていくと思う。

三鬼課長：日々の生活の中にスポーツや健康を意識した運動を取り入れるという視点をどうまとめるか。

芝山課長：現在のその辺の数字の把握の仕方をどうするかということである。今と比較できるような数字がどこまであるかということがある。

委員：その辺りは全体で決めるのか。この部会で決めて良いのか。

芝山課長：ある程度この部会での意見をいただきたい。最終的に本部会議で承認という作業は要と思う。

委員：全体的な時に、この数値はどうだという指摘も出てくるだろう。

委員：生涯スポーツというのは、自分が勝手にマラソンしようとか、そんなものも入るのか。決められた枠でのものなのか。

委員：さっき言ったように施設を使ったり、福祉のほうのウォーキングをしたり、個人でもウォーキングをする人が市民の中にはいる。何%いるかは分からないが。そういう人はどうか。

芝山課長：ここの指標で判断する時は、個人で週末楽しむ方、グループで楽しむ方もいると思うが、そういう方の把握はできないので、その辺の数字を考えると、27年の考え方と33年の考え方にずれが出て、比較自体がずれてしまうので、27年の考え方と33年の考え方が全くぶれないような数字を置くべきである。そうするとどうしても施設の統計を取っているもの、もしくはアンケートでの満足度というところになる。きちんとした統計的な数字はこういう数字になるし、その数字で表せない気持ち的な部分はアンケートでの整理とどちらかしかなかなか難しいところがある。

委員：本当に難しい。個人個人でやっている人は多いだろう。

委員：数値的に入らない個人のウォーキング、登山などのグループがかなりあるので、そういうものが

全体的に尾鷲市の生涯スポーツとして上がってきたほうが健康にもなるし、良いと思う。

委員：「5年後のめざす姿」の「年齢、体力、好みに応じて多くのスポーツに触れ」が、まさしく生涯スポーツということだと思う。

委員：生涯スポーツの中で、「対象」が「市民」になっているが、県外から来てくれた人は市民の中に入るのか。

芝山課長：一応対象としては市民だが、目標になる指標の対象は施設利用者なので、他所の方が来ることもあり、そこはあまりこだわっていない。他所の方でもそれだけの利用者がとりあえず市内にいたという考え方である。

委員：オープンウォーターで来ても施設を利用しなければカウントはされない。それならば、福祉と連動してポイント制にしたらカウントしやすい。山のどこかに何か置いてあって、カードを挿したらポイントになるとか。これは医療費の削減にもとても効果がある。福祉と教育が連携しあって、参加人数ではなく、医療費がどれだけ削減されたかという指標をとっていったほうが分かりやすいのではないか。抜本的にもう少し考えられたほうが良いと思う。今はそういう時代である。

芝山課長：考え方としては、確かに福祉と生涯教育・スポーツは連携していて、健康づくり推進会議も一緒に進めさせていただいている。ただ、そちらのジャンルの切り口になると「健康づくりの推進」という2章の話になる。これは4章である。

委員：それはリンクしていても良いと思う。

芝山課長：実際にしていて、一緒に会議などもしている。

三鬼課長：把握方法をどういうところに基準を置くかで、第2章の「健康づくりの推進」では、今仰っていただいたような医療費削減という項目もあって、そういうところは市民サービス課も含めてそういう指標を元にさせていただいているので、そこはご承知おきいただければと思う。

芝山課長：同じ項目だが、福祉からの視点もあるし、生涯からの視点もある。

委員：食育で、例えば健康食堂のようなところへ行ったらポイントがつくなども含め、誰が何人「食のまちづくり」に参加したか、すべてポイント制にしたら分かりやすいので、そういうわかりやすいポイントのようなものやっていたらどうかと思う。

委員：生涯スポーツというと、今どうしても視点が年齢が高い方の話になっていると思うが、競技スポーツも生涯スポーツに入っていると思うので、例えば福祉の目線になると、年齢層が高くなり福祉との連携になると思うが、目線が子どもたちになると、また違った方向になり、連携する場所が違ってくると思う。

三鬼課長：2章の「健康づくりの推進」で、例えばウォーキングに参加するとハッピーポイントが1ポイント付く。色々な健康づくりに関するポイントを広げていって、今は市民サービス課が各コミュニティセンターでやっている活動もハッピーポイントに今年からしていく取り組みもしており、市民の意識を高めるために教育委員会との連携も検討していきたいと思う。

佐野課長：一様でなく、これというものがなかなかないので難しい。施設を利用しないスポーツの愛好家もいるし、そこをどうやってという話もある。ただ、目に見える、表に現れる切り口で現れているのが施設の利用者だと思う。

委員：逆に言えば、施設利用者にしなければいけないのか。

委員：スポーツ参加者にしたら良いのでは。

三鬼課長：客観的に把握しようと思うと施設の利用者が一番分かりやすい。

佐野課長：すべて市役所サイドで分かる。

三鬼課長：そこにポイントを置くと参加者の減少は否めないというところ等はいくつかある。新しい施設ができれば別だが。

委員：老朽化もしている。

芝山課長：スポーツ大会の参加というのがどこまで把握できるかである。

委員：例えば施設以外の中の答え方として、最後のほうに「世代や性別等の違いに応じた機会を充実するなど「いつでも」「誰でも」「好きなレベルで」と柔らかく表現していると思う。それで「いろいろなスポーツ」に親しめるしくみづくり」をやると、今後、後期に向けてのしくみづくりということに繋がってくるのではないかと思う。

森下係長：指標は 65,000 か。

芝山課長：65,000 という数字で一応置かせていただく。ここは色々なところで議論になると思う。

◆423 国際交流の推進について

※意見なし

◆その他

委員：413 の学校教育の充実、「施策の現状と課題」はとても良いことを書いていただいているが、もう少し短く、1 ページにできないか。レイアウトとしてこれだけが異様に長い。1 行次のページに行っているのが気になる。

委員：学校教育はとても広く、この間言わせていただいたネット社会について増やしてもらっているので、そこが文字的に増えている。

委員：内容的に問題があるわけではない。ただ、素人が読む時に、長い文は読みたくなくなるので、できたらもう少し考えていただけないか。無理なら別に良い。

佐野課長：一度検討する。

委員：学校教育は難しい。

佐野課長：前回の学校教育の充実も 2 ページあった。元々長い。

委員：今度アンケートを取ることになっている。

佐野課長：そうである。この新学期が始まったら始めるので、次回の時にはお示しできると思う。

委員：今回は事前配布をお願いしたい。2、3 日前に配布していただけると有り難い。

委員：一つだけ。尾鷲の俳句が浸透するように活動しているが、募集すると高齢者ばかりである。10 年ほど前に向井小学校の先生の依頼で、県の教育のインストラクターとして行ったが、非常に喜んで良い俳句をたくさんつくってくれた。今の学校、先生方は敬遠しているのか。

佐野課長：学校は指導要領があって、その中でやって、そのほかの授業の部分で取り組みをする先生がいることはあると思うので、ゼロではないと思うが、絶対しなければならない話でもない。その時も、向井の先生は取り組みを気に入っていただいて参加されたのだと思うが。それは話を持って行って、それで反応する話になれば良いと思う。

委員：そういうところから何か交わりができる。

佐野課長：その流れとしてコミュニティスクールがあって、一方では学童と言って、放課後児童クラブという形でやっていたり、学校の土日のいきいき尾鷲っ子のような取り組みの中でそういうメニューを考えると色々あると思うので、またそこは話しさせていただきたい。

委員：俳句などは自然に密着し、そしてまた教育的にも良いので、そういうことも念頭へ入れていただきたい。

芝山課長：福祉と教育委員会、生涯学習で、子育てサポーターを今一生懸命つくっていかうとしている。その中で福祉から見た子育てのサポーターもいるし、教育委員会、公民館から見た子育てサポーターもいるので、そこへ色々な人に登録していただき、いきいき尾鷲っ子やコミュニティスクールなど、今度はそういう場所があるので、そこへサポーターが出かけて行って、ボランティアでしていただけると良い。それが高齢者の生きがいにも繋がっていくとなお良いことになる。

委員：身近なところでは紀北の長島で樗良祭があるが、子どもたちに図書券を少しあげるだけでとても良い俳句をつくる。毎年長島の教育委員会から招待されて行くが、子どもたちは目の光が違う。そういうのも尾鷲でどうか。

芝山課長：今言ったようにやり方があると思う。子育てサポーターのしくみは今はまだ確立まではできていないが、本年度も色々な事業をするので、またご紹介させていただく。